



### 二荒山神社

関東第一の霊峰と称えられる二荒山（ふたらさん）【男体山（なんたいさん）】は、太古の昔から神の山として信仰され、奈良時代末、神護景雲年間、下野の僧なる沙門勝道（しゃもんしょうどう）は二荒山の莊嚴神祕に憧れ、弟子と共に頂上を目指しさまざまな難行苦行の末、天應二年（七八二）ついにその宿願を果たし、男体山頂に至り二荒山大神三神を拝しお祀りいたしました。これが当社の起源であり、「二荒」を音読みしてニコウ。これに「日光」の字を当て、ニッコウと読み地名の語源となっています。

※提供元「二荒山神社」



くにたまの会

# くにたまの会会報

## 【第11号】

発行／くにたまの会  
島根県出雲市大社町杵築東195  
出雲大社社務所内  
TEL：0853-53-3100



ご

挨拶

拶

くにたまの会総裁  
出雲大社宮司

千家尊祐

会員の皆様にはそれぞれの奉務神社に於きまして日々のご奉仕を通じて御神徳の宣揚と啓発にお努めになられていらつしやいます。日本全国に広がる信仰の輪の拡がりには、偏にそうした皆様のお務めの御蔭であると深く感謝申し上げます。

また畏くも天皇皇后両陛下におかせられましては、愈々日々御麗しく御公務に御精励あそばされておられますこと、洵に慶賀の至りに存じます。これからも大御代の益々の弥栄を祈念申し上げ、御皇室の尊嚴維持に一層努めて参りたいと存じます。

本年元旦に石川県を中心として北陸地方に甚大な被害をもたらした能登半島地震が発生いたしました。被災され犠牲になられた方々に衷心よりご冥福をお祈り申し上げますとともに、今尚困難な生活を強いられる方々へお見舞いを申し上げます。さて、世界に目を向けますと、各地での紛争により多くの人々が恐怖や悲しみに包まれておりますが、出

雲大社においては、境内にウクライナ国旗を模した幟を掲げて困難の中にある人々に心を寄せるとともに、ご参拝の皆様には平和への祈りを込めた折鶴をつくっていただき、千羽鶴に仕立て境内に吊るすことで、世界平和を祈念させていただいております。そのような誠に困難な世情ではありますが、私共は活動を通じて誇りある日本の伝統・文化とその精神の継承に努めており、更に大國主大神様の和譲の精神を広く発信することにより社会の平和に寄与していくことが使命であります。

今後とも信仰を通して、その御神徳の宣揚と啓発に力を合わせ、共に精進をと念じ上げますとともに、本会にお心寄せをいただきますようお願いを申し上げます。

末筆になりますが、聖上の安泰長久、皇室並びに我が国の弥栄、会員の皆様方の奉務神社の益々のご隆昌をご祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

# 令和六年度 くにたまの会総会

於・栃木県 二荒山神社

去る令和六年六月二十日、くにたまの会総会を栃木県日光市の二荒山神社そばの日光千姫物語を会場として、会員神社二十六社四十九名が出席しての開催となりました。



二荒山神社御本殿前にて参加者一同での記念写真

中麿副理事長（二荒山神社宮司）より総会に先立って、是非とも神橋（世界文化遺産・重要文化財）を渡っていただきたいとお話があり、正

式参拝前に神橋を渡らせていただきました。



神橋を渡る会員

その後、正式参拝では千家尊祐総裁（出雲大社宮司）と鈴木寛治理事長（大神神社名誉宮司）に併せ当会全員が拝礼、その後、御本殿前にて、参加者全員で記念写真を撮影しました。



二荒山神社正式参拝

総会は、永友理事（都農神社宮司）による開会の辞の後、出席者全員で神宮並びに奉務神社遥拝、国歌斉唱、この一年間に帰幽された会員のご冥福を祈り黙祷を捧げました。

続いて、千家尊祐総裁からの挨拶では、本年元旦に発生いたしました能登半島地震により被災され犠牲になられた方々へお悔やみなどのお言葉があり、開催神社を代表しての中麿副理事長からは、千家尊祐総裁をはじめ役員・会員の方々に多数のご出席をいただいたことへの感謝と、古例に倣って神橋をお渡りいただいたの正式参拝、また聖地日光を堪能いただければ有り難いとお言葉があり、総会開催神社としてのご挨拶をいただきました。



副理事長 二荒山神社 中麿宮司による挨拶

また本総会に対して、全国賀茂社連合理事長 高井俊光氏（賀茂別雷神社宮司）、全国八幡宮連合総本部長 田中恆清氏（石清水八幡宮宮司）、全国諏訪神社連合会会長 北島和孝氏（諏訪大社宮司）、全国稲成会会長 舟橋雅美氏（伏見稲荷大社宮司）、全国春日連合会総裁 花山院弘匡氏（春日大社宮司）、より頂戴した御祝状並びに祝電を披露した後、永友理事を議長として議事に入り、事務局より令和五年度事業報告及び決算報告、令和六年度の事業計画案及び予算案を提示・審議いただき、令和六年度予算案の予備費に盛り込まれた「能登半島地震義援金（壱百萬円）」を含む全ての議案に対し承認をいただきました。

また本総会に対して、全国賀茂社連合理事長 高井俊光氏（賀茂別雷神社宮司）、全国八幡宮連合総本部長 田中恆清氏（石清水八幡宮宮司）、全国諏訪神社連合会会長 北島和孝氏（諏訪大社宮司）、全国稲成会会長 舟橋雅美氏（伏見稲荷大社宮司）、全国春日連合会総裁 花山院弘匡氏（春日大社宮司）、より頂戴した御祝状並びに祝電を披露した後、永友理事を議長として議事に入り、事務局より令和五年度事業報告及び決算報告、令和六年度の事業計画案及び予算案を提示・審議いただき、令和六年度予算案の予備費に盛り込まれた「能登半島地震義援金（壱百萬円）」を含む全ての議案に対し承認をいただきました。



永友議長による議事進行

尚、義援金の目録を総会にご出席いただいた金沢市石浦神社 長谷宮司へお渡しをさせていただき、一日も早い被災地の復興をお祈り申し上げます。

長谷宮司は地震発生直後より全国へ支援を呼びかけ自ら被災地へ物資を届けるなど、今尚神社の有志とともに活動を続けていらっしやいます。



能登半島地震義援金目録贈呈

◎次回開催地は島根県

次年度の開催地について、島根県（出雲大社）にて開催を予定していることが報告された後、猿渡副理事長（大國魂神社社宮司）による閉会の辞により、総会は滞りなく終了しました。

総会后、日光殿堂案内協同組合理事長 春日武之氏により「日本人の大好きな三大比較」と題した講演が行なわれました。

春日氏は日光には「三」にまつわるお話が多く伝わっていることをはじめに述べられた。神様（大己貴命・田心姫命・味耜高彥根神）、山（男体山・女峰山・太郎山）、社（新宮・滝尾・本宮）これを日光三社といひ、三柱、三山、三社が昔から伝わっていることを述べられた。又、日本各地に広がる「三」にまつわる物が多く広がっており日本三大祭の神田祭・祇園祭・天神祭や建物の三大比較の雲太（出雲大社）・和二（東大寺大仏殿）・京三（大極殿）をとりあげられ、これらの「三」にまつわる物語に終わりはなく、常に我々は三位一体であること、三人寄れば文殊の知恵というように「三つ」集まれば何か出来るのではないか「三」という数字は日本人にとっては最も力が発揮させるものではないか。とお話をいただきました。



春日武之氏による講演会

◎懇親会和やかに

総会・講演会后、会場を宴会場へ移し、鈴木理事長の開会挨拶により懇親会が開催されました。



鈴木理事長の懇親会開会挨拶

懇親会では猿渡副理事長の発声による乾杯の後、普段顔を合わす機会の少ない会員同士が互いに親睦や交流を深め合い、終始和やかな笑い声に包まれました。



猿渡副理事長の乾杯挨拶

役員会正式参拝通信

令和六年六月十九日、役員会に先立ち二荒山神社中宮祠において正式参拝が執り行われました。



中宮祠正式参拝  
※拝殿修造中のため神楽殿にて参拝

参拝後に記念写真撮影、宝物特別展拝観をさせていただきました。



中宮祠前での記念写真

# 東京都支部総会

於・亀戸香取神社



清水支部長の挨拶

去る令和五年十月二十四日、江東区亀戸に鎮座する亀戸香取神社に於いて東京都支部(清水祥彦支部長)の総会が開催された。東京都支部は令和二年の設立より四度目の会期を迎えているが、コロナ禍により顔を合わせての総会は今回が二度目となる。当日は昇殿参拝後に社務所にて総会を実施。開催にあたり清水支部長より参加会員へ向けての挨拶があり、開催神社として総会開催に尽力された副支部長香取邦彦宮司より歓迎の言葉を頂いたのち当総会の議決事項審議となった。

議長は会則により支部長が選出された。令和四年度事業報告と決算報告、令和五年度事業計画と予算案が審議され、全会一致で承認された。



議事進行の様子

総会後は研修事業として講演会を開催。講師として前宮内庁掌典長楠本祐一先生をお招きし「外務省勤務、宮内庁掌典長の経験を踏まえて、日本、世界について考えること」の題でご講話を賜った。外交官として赴任された様々な地域で過ごされた日々のごこと、そして宮中にて掌典職としてお務めになった日々のごこと、様々な環境とお立場で培われた日本

に対しての思い、そしてこれからの国で生きていく人々への思いなどが語られた。



楠本先生による講演会の様子

その後会場を後にして、懇親会会場である亀戸升本本店へ移動。くにたまの会本部副理事長、当会顧問を務める大國魂神社 猿渡昌盛宮司による挨拶と乾杯の発声がなされ、講師楠本先生同席のもと賑々しく参加者の杯が掲げられた。

今後も当会では御祭神の御神徳を宣揚し、斯道の発展と鎮座地域の活性化に貢献するべく、会員の拡充活動や、会員相互の懇親事業等、様々な事業に取り組んでいきたいと考えている。



出席者一同での記念撮影

東京都支部の役員は次の通りです。

## くにたまの会東京都支部役員

- 支部長 清水 祥彦(神田神社)
- 副支部長 香取 邦彦(亀戸香取神社)
- 理事 星野 誠(日枝神社)
- 齋藤 成惟(穴八幡宮)
- 澤田 浩治(駒繫神社)
- 筒井 昌和(氷川神社)
- 村岡 賢治(諏訪神社)
- 中村武比古(山王社)
- 監事 野澤 靖明(国領神社)
- 宮田 健二(出雲神社)
- 始澤 澄江(五條天神社)
- 猿渡 昌盛(大國魂神社)
- 小野 貴嗣(小野照崎神社)
- 参問 窪田 隆榮(杵築神社)
- 大鳥居信史(神田神社)

また、全国各地で今後多くの支部が結成されることを期待致しております。

# 兵庫県支部総会

於・播磨国総社



神宮並びに奉務神社遥拝の様子

令和六年六月十三日、くにたまの会兵庫県支部役員会・総会が兵庫県姫路市総社本町鎮座 射楯兵主神社総社社会館を会場として開催されました。午後三時からの役員会は、役員七名の出席、午後四時からの総会は、十一名の出席となりました。総会に際しまして、くにたまの会本部より千家尊祐総裁のご名代として、出雲大社禰宜 平岡邦彦様にご出席いただきました。

総会は、別所副支部長（湯泉神社 宮司）の開会の辞より始まり、参加者全員による神宮並びに奉務神社遥拝、国歌斉唱を行いました。

続いて、くにたまの会千家尊祐総裁より頂戴した祝状を、平岡禰宜様の代読によりご披露申し上げました。そして、規約に則り西本支部長を議長として議事に入りました。

令和五年度事業報告では、役員会総会懇親会の開催他、家島に於いて



西本支部長の挨拶

西本支部長（射楯兵主神社宮司）より、本年荒井神社様の国恩祭に千家総裁の名代として参列させていだいた際、荒井神社の氏子さん達が大国祭と呼んでいる事に感激し、大変な盛り上がりであったとの挨拶がありました。



出雲大社 平岡禰宜による報告の様子

の巡拝会の報告がなされました。次に、令和五年度会計決算を行いました。会計より決算報告が行われ、引き続き監事より監査報告が行われました。

令和六年度事業計画（案）では、巡拝会の期日を令和六年十二月五日とし、小松理事本務神社高砂神社を正式参拝する事となりました。

次に、令和六年度会計予算（案）では、事業計画に做った予算であり、特別積立金を計上する旨の説明がありました。

次に、結成より六年を経過し、二回目の役員改選について協議されました。廣瀬本部理事の本部役員退任に伴い、支部役員を退任。会員神社としてご協力いただくと共に、他役員の再任が承認されました。



懇親会の様子

最後に、本部の平岡禰宜様より現状報告と本年度総会に於いての役員の選任、ホームページの活用等について報告がなされました。

終わりに、大部理事（野口神社宮司）が閉会の辞を行い、総会を終えました。引き続き、同会場にて懇親会が行われました。

懇親会では、廣瀬会員（荒井神社 名誉宮司）の乾杯の発声により、祝杯を高らかに上げました。本部からのご来賓をお迎えし、懇親会は終始和やかな雰囲気、会員相互の親交を深めて終えました。

# 会員増加の動向と 今後の方針

新たにご加入いただいた会員神社は左記の七社でございます。

- ・秋田県 真山神社宮司 竹内信彦氏
- ・北海道 旭川神社宮司 芦原高穂氏
- ・兵庫県 稲荷神社宮司 宮崎和明氏
- ・島根県 金刀比羅神社宮司 牛尾 充氏
- ・群馬県 諏訪神社宮司 篠宮 剛氏
- ・宮城県 竹駒神社宮司 村田守広氏
- ・島根県 大呂神社宮司 小林俊介氏

現在の会員神社は新規加入神社を含め三一五社となりましたが、まだ少ない県があるようです。

事務局としても引き続き奉斎神社を調査し、ご入会の勧誘を行ってまいります。各会員神社の皆様におかれましては、ご声かけをお願いいたします。

ご入会をご検討の神社には入会案内資料をお届けいたしますので、事務局までご連絡をお願いいたします。

くにたまの会事務局

## 「くにたまの会」会員神社異動報告

### 宮司就任・退任

奈良県	大神神社宮司就任	井上 卓朗氏
奈良県	大神神社宮司退任	鈴木 寛治氏
奈良県	大神神社名誉宮司就任	鈴木 寛治氏
滋賀県	日吉大社宮司就任	森 真吾氏
滋賀県	日吉大社宮司退任	馬淵 直樹氏
滋賀県	日吉大社名誉宮司就任	馬淵 直樹氏
山形県	出羽三山神社宮司就任	阿部 良一氏
山形県	出羽三山神社宮司退任	宮野 直生氏
山形県	出羽三山神社名誉宮司就任	宮野 直生氏
東京都	根津神社宮司就任	内海 康人氏
東京都	根津神社宮司退任	内海 一紀氏
東京都	田端神社宮司就任	中神 孝夫氏
東京都	田端神社宮司退任	宮澤 良和氏
島根県	八幡宮宮司就任	三浦 重嗣氏

### 「くにたまの会」会員神職帰幽

- 藤井 秀弘氏 (石川県 高瀬神社名誉宮司)
- 三浦 重興氏 (島根県 八幡宮宮司)
- 山口 雄之氏 (北海道 手稲神社名誉宮司)

右の方々のご帰幽を悼み、謹んで追悼の意を表します。

※慶弔のお知らせがございましたら事務局までお知らせ下さいませ。

## 広報活動について

くにたまの会ホームページの内容や会報の更なる充実を図るため、会員神社の皆様方からの情報提供をお願いします。

就きましては、会員神社で行われる遷座祭・式年祭・特殊神事、また地域の伝統行事や身近な出来事などを事務局までお寄せ下さいませ。

会のホームページや会報を通じ、会員神社の皆様幅広く知っていただくことで、神社間の相互交流にも繋げてまいります。

### 送り先

〒六九九一〇七〇一

島根県出雲市大社町杵築東一九五

出雲大社社務所内

「くにたまの会事務局」宛

電話 〇八五三一五二二一〇〇

メール joh@izumooyashiro.or.jp

※お写真も一緒をお願いします。